

中国輸出促進会議概要

日 時：平成23年1月28日（金）16:00～17:45

場 所：日本青年館ホテル

出席者：先方 …… 中国農業発展集団総公司 劉董事長、
中国農産食品有限公司 熊董事長 ほか
当方 …… 鹿野農林水産大臣、筒井農林産副大臣 ほか

（司会）只今より中国輸出促進会議を開会致します。本日の司会進行を務めさせていただき、農林水産省の畠山と申します。どうぞ宜しくお願いします。開会に当たりまして、筒井農林副大臣より開会のご挨拶を申し上げます。

（筒井副大臣）皆様本日はお忙しい中、このように沢山集まっていたいただき、有難うございます。中国への輸出に対する関心の強さの表れだと思います。後ろの方にお立ちの方もいらっしゃると思いますが、しばらくちょっと辛抱頂きたいと思います。

中農集団の劉会長におかれては、本当に忙しい中、26日から来日して頂きまして、日本の食品、農林水産物の現状を視察をしていただき、本当に有難うございます。今、農水省としては攻撃型の農政を目指しています。その際に、農林水産物、それに関連するものの輸出、これを強力に進めたいと考えてきました。中国は13億人の人口を抱え、しかも、物凄く急激な経済成長をずっと続けている大市場であり、中国への輸出を大きな課題として取り組んでいかなければいけないと考えてきました。日本の農林水産物は、安全性と味の良さに関しては絶対の自信を皆様もお持ちですし、強い国際競争力を持っているものと確信しています。ただ、価格の点で弱みを持っており、価格の点では国際競争力についてはなかなか確信が持てない状況でした。しかし、中国での1億人の富裕層の出現、中国の大きな経済成長、これらは価格の点の弱さを解消まではしていないくても、この点を解決しつつある状況になってきたと思います。そこで先月、中農集団劉会長のお招きで中国に行き、劉会長と会談し、覚書を締結してきました。覚書の中身は、今日配った資料に入っています。その第一項には、中農集団が米をはじめとした日本の農林水産物の輸入の拡大に努力をして頂けるというのが入っています。私はその際に、日本からの輸出を拡大させて頂きたいと劉会長に願いし、米では当面20万トン、将来的には100万トンを目指していきたいと申し上げました。劉会長からは、その目標に賛成であるとの極めて嬉しい温かい言葉もいただきました。

覚書二項目には、中国に日本の食品関連生産物の展示兼販売館を設置するという条項が記載されています。劉会長からは、北京における展示館の候補の建物を見るように言われ、その候補地の建物に行ってきました。地下1階、地上2階の総面積が

5,000㎡という大きな建物でありました。農業部の建物だったが、その後農業部からも賛同を中農集団が得ていると聞いています。この展示兼即売販売館、5,000㎡すべて日本関係の食品だけの展示館であるため、日本の今日集まりの企業の皆さん、都道府県の皆さんにここで展示して頂き、販売させて頂く、この展示館を北京だけではなく、中国3カ所に設置したいという状況であります。

この2項目がここでの中心的な中身です。それ以外に、農林水産業の技術交流の条項や、中農集団が中国で安全基準を作成する際日本の農林水産省が協力する規程もあります。

この覚書の締結をして、覚書の具体的な実行の第1歩として26日から劉会長に来日して頂きました。今日、劉会長からそれらの問題について皆さんに説明して頂き、今後具体的にこの話を進めていきたい、なんとか実らせたいと強く念願しています。鹿野大臣をはじめ農林水産省全体が一丸となってそのために全力を挙げることを決定しています。是非今日この会合をその1歩として実りあるものにして頂きたいし、していきたいと考えています。そのことを申し上げて、私の開会の挨拶とさせて頂きたいと思います。

(司会) 筒井副大臣有難うございました。続いて中国よりお越し頂いた、劉董事長よりお話を頂きます。劉董事長宜しくお願いいたします。

(劉董事長) 尊敬する筒井副大臣、尊敬するご来場の皆様。先程の筒井副大臣の重要かつ情熱を込めたスピーチに感謝しています。今回、私と私の同僚達は、鹿野大臣の要請により、それから筒井副大臣の心を込めた日程案内により来日しました。今日はこの会場で沢山の皆様とお会い出来たことに感謝しています。中国の一農業企業として来日し、日本政府の支援を得、沢山の日本企業とお会い出来たことに大変感激しています。ご来場の皆さんは中国へ日本の農産物・農産加工物を販売することに大変興味を持っていることと思います。

昨年12月8日、筒井副大臣が北京の我が社を訪問され、日本の農産物について十分な交流をしました。筒井副大臣と日本の農産物の中国への輸出・加工・お互いのエンジニアの交流と、両者の対話を通じて共同の認識に達しました。その共同の認識によって覚え書きにサインしました。この覚え書きの内容によって、私と同僚達は勉強のために来日しました。

昨日、筒井副大臣自らの案内で、私どもは新潟県の十日町、津南町、新潟市に参りました。新潟の米の一連の生産、加工、保存、販売と全てのものを視察してきました。これによって良質の米がどんな環境で栽培・販売されているかを確認することができました。新潟県の人々は大変情熱を持ち、良い米を持ってご馳走してくれました。私は特別に2杯も米を食べました。今回新潟の視察の記憶は、大変美しく、深い記憶になることは間違いないと思います。新潟での視察は本当に忘れられないことなるだろうと思います。

中農集団の主な業務を皆さんに簡単に紹介したいと思います。我が社は中国国務院管轄下の中国の農業企業です。そして、完全に市場で競争している企業です。私どもの会社の主な仕事は、農業農村農民に対するサービスを提供することです。中国の農業の現代化を推進すると同時に中国人の健康に対しても責任を持っています。中国に対するサービスと共に、農業産業化に対しても活動しています。また、中国国内のことだけではなく、海外の水産業や農産物業務も展開しています。海外に対して、農業・水産業の開発も行っています。それから、牧畜、生物ワクチン、動物の医薬品の生産も行っています。それから、農業の植物の種、加工食品も取り扱っています。農民向けの保険業も手がけています。これから我が社はハイレベルな農産物から入り、ハイレベルの農産物の生産・販売に力を入れようと思います。中国で素晴らしいブランドを設立し、中国の消費者に信頼出来るサービスを提供しようと思っています。中国の消費者への食品安全と健康のために我が社はサービスを提供したいと考えています。

これから皆さんに紹介する中国農発食品有限公司が、この重要な役割を果たす私どもの子会社であります。この会社はこれから、中国に安全な農産物の販売に関し、重要な役割を果たすこととなります。日本の農産物又は加工物の安全性は世の中に広く知られており、これは、日本政府、また、日本の農林水産省が食の安全を重視していることに関連があります。

政府の管理ばかりではなく、企業自身の努力、企業自身の対消費者への配慮もあると思います。

本日の午前中、京都、北海道、山形の食品展示のアンテナショップを視察しました。各地の優良食品がされています。本当に素晴らしい食品で特色も大変ありました。私はその場で良いものを少し買い、中国に持って帰って、家族と友人に分けようと考え、買い物をしました。

中国の経済の発展によって、人々は安全、優良食品に対する興味が増え始め、特にハイレベルの食品、有機食品に対する需要が段々と増えています。ここで皆さんにご紹介したいのは、中国の消費者が日本の農産物、日本の加工食品の安全性と素晴らしさに対して、大変興味を持っています。

例えば、新潟のコシヒカリ、神戸牛は中国の消費者に良く名前が知られています。中国の人々は、日本の食品の詳細については、両国の食文化が近いことから、親しさを感じています。中国の消費者が日本の食品、農産物の認可、認めることによって、私どもも皆さんと協力する前途が広がっていくこととなります。

これから、3つの連携事項を提案したいと思います。1つ目は、共同で中国市場に進入し、その成果と一緒に、共同で享受したいということ。2つ目は、共同で生産技術を開発し、生産レベルを高めようということ。3つ目は共同で市場を開拓したいということです。共同で素晴らしさ、補完体制で市場を開拓しようと思います。私どもの会社は、日本の企業と今まで一緒に共同で事業を実施した経験もあります。例えば、マルハさんとマダガスカルでの共同で遠洋事業、また、日本の農林水産省傘下の漁業協会とマグロを食べさせる共同事業を経験したことがあります。

先ほど、副大臣が紹介したとおり、北京の素晴らしい、一番良い所で、5千㎡のアンテナショップを共同で実施することで、日本の農産物を開拓する予定です。このアンテナショップは、日本の食品業界との協力の場、また、日本の食品、農産物の中国への消費者に対するPR、宣伝の場となることは間違いがないと思います。

このアンテナショップを土台として、日本の食品、日本の農産物を中国人民の食卓、または各中国人の食卓に入ることには間違いがないと思います。筒井副大臣と農林水産省と協力して、最大限に日本の農産物の中国への輸出を促進したいと思います。このような合作によって、両国の食品が、両国の人民の健康に役割を果たし、食品を有効の使者となるよう努力したいと思います。本当に農林水産省の皆さんにより、このような場が提供され、日本の皆さんと初めて知り合いになれることを知り、これから共同で農産物の対中国輸出を協力して頑張りたいと思います。

改めて、ご来場の皆様とお知り合いとなれることを大変嬉しく思います。

～ 司会より中国側のご出席者を紹介 ～

～農林水産省より「資料2：中国への輸出をめぐる現状」に沿って説明～

(熊董事長) 日本の農産品業界、農産品加工業界、47都道府県の皆さまこんにちは。この場を借りまして、中国農業発展集団を代表しまして、子会社である中国食品会社の状況と日本農産物のアンテナショップの計画について皆さまにご紹介したいと思えます。時間の許す限り皆さんの質問も受けたいと思えます。まず我が社の中国農産食品会社のことを紹介します。

(司会) お手元に資料も配られていますので、資料もご覧いただければと思えます。

～熊董事長より、「資料3-（1）：中国農産食品有限公司紹介」に沿って説明～

(熊董事長) 次に日本農産物の常設展示ホールの提案について説明します。

～熊董事長より、「資料3-（2）：日本農産物常設展示ホール企画案」に沿って説明～

(司会) ご説明中ですが、ただ今、程駐日大使と鹿野大臣がいらっしゃったので、ご説明中誠に申し訳ございませんが、鹿野大臣から一言ご挨拶をお願いしたいと思えます。

(鹿野大臣) 国会の関係で大変遅れて申し訳ございません。まず、ご来場の皆様方にこうやってお越しを頂きまして、お礼を申し上げたいと思えます。

こうやってこの会場で、中国輸出促進会議というものを開催することができたということに対して、私ども大変嬉しく思えます。

実は、昨年12月に、筒井副大臣が中国に参り、中国農業発展集団の劉会長と覚書を交わしたところです。その時に、私から是非劉会長にこの日本にお越しを頂きたい、直接関係者の方々と話し合っ頂きたいということ招請致しました。それに応えて頂き、この度御来日されたということで、心から感謝を申し上げたいと思います。

そして、お忙しい中、程大使もわざわざこうやってこの会議に足をお運び頂きまして有難うございます。

また、都道府県の皆様方、そしてそれぞれ業界の皆様方に対しても、密にお取組ただくということで、今日この会議にご参加をいただきまして心から感謝を申し上げたいと思います。

なんといっても中国は、言うまでもなく大変重要なパートナーです。そして、中国の国民の人たちが、日本の農産物その他色々なものに対して大変評価を下さっている、これは嬉しいことでもあります。その農産物をはじめとする色々なものの輸出ができて、そして中国の国民の人たちに親しんでもらうということになれば、これは良好関係がさらに友好が深められるということになるし、また、我が国の農林水産業の発展にもつながると、こんな思いをしながら、昨年、筒井副大臣が中国に参ってお話をさせて頂いたことが、こうやって中国輸出促進会議を開催することができたということが大変意義のあることではないかと思っています。

この輸出の件については、私ども昨年の夏以降勉強会を重ねてきました。山田前大臣、筒井副大臣をはじめ色々な方々と、どうすればもう少し日本の農林水産物等を輸出できるか、受け入れてもらえるかということが具体的にになっていけば、新しい良好関係の一步がスタートするのではないかと思ひながら、この会議が次のステップに結びつくよう心から期待しています。

そして同時に、農業発展集団の日本からの農林水産物の輸入が上手くいくよう、農林水産省としても後押しをしていきたいと思っています。

今日の会議を一つの契機として、都道府県、関係業界の皆様方におかれましても、新たなる意欲を持って取り組んでいただければという思いを一言申し上げながら、改めて劉会長、程大使をはじめ中国側の皆様に感謝を申し上げながら、また、お越し頂いた皆様にお礼を申し上げながら、農林水産省を代表してご挨拶をさせていただきます。

(司会) 続きまして、程中国駐日大使からご挨拶を頂きたいと思ひます。

(程大使) 時間の関係で日本語で挨拶をしたいと思ひます。今日はこの会場に駆けつけて皆様の盛況・熱気を肌で感じ取っているところです。

中国は、改革開放に政策をとり始めて30年有余になって、この間、目覚ましい発展を遂げてきました。これには色々な要素があるが、中国の一連の政策や全国で一致団結して努力した結果、また、日本をはじめとした諸外国のご協力・ご指示を頂きました。

その一つの結果として、いわゆる世界の製造工場といわれてきましたが、その中で

市場の役割、世界のマーケットとしての役割は、確実に拡大されてきました。

その中で、例えば一つの数字として表れたのは、昨年中国と日本の貿易額。中国側の統計によると、2,978億米ドル。約3,000億米ドルですけれども、この数字は今までの最高であり、2008年のリーマンショック前の最高記録を上回りました。これは、いわばリーマンショックのマイナスの要素を克服して、さらに発展できたといえると思います。しかもその中身をみますと、日本側の黒字が確実に拡大しているという統計データが出ています。

今までは、中国側の統計によると、日本側の黒字。日本側の統計によると、中国側の黒字。しかし、日本側の統計は発表されていないが、聞くところによると、確実に双方の統計ともに日本側の黒字は間違いなしと聞いています。

それは、中国の市場としての役割、また、中国の内需が拡大しているといえます。もう一ついえることは、中国と日本の相互依存、共通の利益は益々拡大しているともいえます。

中国の対外貿易に占める割合において、対日貿易が1割以上。日本の対外貿易はおそらく2割ぐらいではないかと思います。また、中国での日本企業の貿易面での発展も大変目覚しく、良い成果を上げています。

会場には、名古屋から新幹線で駆けつけてきましたが、名古屋港の取扱の貨物の半分以上あるいは3分の2位が何らかの貨物の取り扱いにおいて中国と関係があるということ、名古屋の中京地域というのは日本の製造地域の中心でしてこのように中国と日本の結びつき、何らかの体制がますます強くなると考えております。今回、劉董事長を始めとして中国農業発展集団の訪日をきっかけとして中国と日本の何らかの関係の充実を図る上で大きな意義を持つと信じております。皆さんのこのような努力を重ねて両国の友好関係をますます推進していけるようにと願いつつご挨拶とさせていただきます。

(司会) 程大使どうも有難うございました。大使館からは牛建国公使参事官にもお越し頂いております。程大使におかれましては次のご予定があるとお聞きしておりますのでここでご退席されることとなります。業務多忙の中、お越し頂きまして有難うございました。それでは、熊董事長ご説明の途中失礼致しました。引き続き熊董事長のご説明をお願いいたします。

～引き続き、熊董事長より、「資料3-(2):日本農産物常設展示ホール企画案」に沿って説明～

(司会) どうも熊董事長有難うございました。本来であれば少しでも質疑応答のお時間を取りたいところですが、ちょうど時間となって参りました。この後18時より懇親会も予定されておりますのでそちらでいろいろコミュニケーションを取られて頂くのも宜しいかと思っております。それでは最後に筒井副大臣の方から宜しく御願い致します。

(筒井副大臣) 皆さん、長時間大変有難うございました。劉董事長、具体的なお答えを頂いた熊董事長、大変有難うございました。劉董事長は中国国民の健康と長生きの長寿のための食品を中国国民に広めていきたいということを最大限に強調されております。中農集団は、中国最大の食品関係の企業で8万人の従業員を擁します。そして以前中農集団と農業部、日本でいえば農林水産省ですが、これと検疫当局が三者一体の組織でございました。それが今3つの組織にわかれて今それぞれが活動されている訳でございます。この色々な展開、中農集団の色々な影響力は大きい訳でございます。是非この中国国民の健康と長生きのために日本の食品を中国人に供給していくこと、これが絶対に成功していくことを確信しております。

そして最後に、提案といいますか話であります、この袋に入っている一枚紙「中国輸出促進協議会について」という紙があるかと思えます。今日は農水省の農水大臣主催の会合でございます。しかし、これから中農集団さんと輸出を具体的にを行うのは、皆さんが行う訳でございます、「民・民」の関係でございます。展示館には、都道府県の皆さんも展示して頂くことになるかと思えますが、いずれにしても皆さんと中農集団さんとの直接的な協議・話し合い・合意に基づいて具体的な輸出が、そして展示活動が始まる訳でございます、それに対して農水省が全力を挙げて、後援・ご支援申し上げる、こういう関係になります。それで皆さんに、是非それらの輸出を促進するために具体的にどうやってやっていくのか、これらを皆さん自身が色々な形で協議をし、進めていく、そういう機関も必要であろうという風に思っております、それがこの書面であります「中国輸出促進協議会」、これは仮称でありますから皆さんが決めていく訳でありますけれども、こういう機関・組織が必要であろうと思っております。これらについて感心の強い方、今日参加した皆さんで関心の強い方、この裏に、これは申込書ではないのですが、企業名とか何かを書く欄がございます。これを書いて農水省の方に送って頂ければ、事務的なそういう話をした上で、その関係でまた連絡をさせて頂きたいと思えますので、宜しくお願いします。今日は本当に長時間に亘って、熱心なこういう会に参加して頂き、有難うございました。中農集団も本当に皆さんの情熱を感じると、こう関心しておられました。これから日中両国の友好関係を常に強めて、貿易関係、輸出関係を強めていく、こういうことをお互いに確認し合って、今日の会合を終わりとしたいと思います。今日は大変有難うございました。

(司会) 筒井副大臣、どうも有難うございました。たった今、農水省の方にも、中農集団の方から、中農集団側の体制図も頂いております。今後しっかりと一緒にやっていきたいと思えます。

本日は長時間に亘りましてどうも有難うございました。以上を持ちまして、「中国輸出促進会議」を終了させて頂きます。この後18時より4階におきまして懇親会を予定しておりますので、是非ご都合の宜しい方はこちらにもご参加頂きますよう、お願い申し上げます。本日はどうも有難うございました。

(以 上)